

# 障害者福祉サービス事業を活用した生涯学習支援

～人生を豊かに生きるための生涯学習をめざして～

草羽 俊之 (NPO 法人エス・アイ・エヌ 集いの場あゆみ 所長)

キーワード：人生の支援 障害者福祉サービス事業 主体的な学び 豊かな余暇活動

## 1. はじめに

生涯学習の取組は、学校卒業後に就労している人が、自立のために必要な知識やスキルの習得に向けた狭義の生涯学習として始まった。

しかし、障害者が就労や生活の中で直面する問題は多様で、個に応じた支援が必要である。

つまり、就労・生活の困り事の解決や生きがいを作るための学びや生活支援に結びついた広義の生涯学習として捉えることが重要となる。

すなわち、人生を豊かに生きるために、自立に役立つ実践的な学習と生きる喜びにつながる活動、そして活動を共に楽しむ集団を大切にしたい生涯学習支援の場が必要であると考えた。

上述したことを実現するために障害者福祉サービス事業を活用した「集いの場あゆみ」の設立に至るまでの経緯と現時点での実践の内容と到達点の報告をする。

## 2. 生涯学習の取組に至るまでの経過

生涯学習支援に至るまでは、養護学校（現特別支援学校）を卒業後の余暇活動の場の保障をする青年教室や大学でのオープンカレッジ、そして自立を学びあう生涯学習講座の取組があった。これらの経験を活かして生涯学習支援「集いの場あゆみ」の設立へとつながっていった。

### (1) こいこいクラブ（青年教室）の取組

私が養護学校教員だったときに卒業生との忘年会で、休日には友達と遊ぶ機会がほとんどなく、一人ぼっちで過ごしていることが話題になった。

「休日は仲間と遊びたい」「話をしたい」と溜まっていた思いが次々と出され、1992年7月

に青年教室「こいこいクラブ」が結成された。主には一般就労をしている人たちが参加をした。「こいこいクラブ」の由来は、カープの「鯉」、「恋」中身が「濃い」、みんな「来い」を意味が込められている。

当事者（本人）による運営や意思決定を尊重した活動をめざして、学生ボランティア（サポーター）と青年たちの代表によるミーティングで行事の内容について話し合った。

行事はみかん狩り、野球観戦、ボウリング、カラオケ、一泊旅行など活動内容も広がった。更には和太鼓やダンス、スポーツ、そしてワープロ操作や運転免許取得など、活動は行事や文化活動、学習までの領域へと発展していった。

一般就労をしている人たちは職場で孤立をするケースが多く、休日にもリフレッシュをする場もなく、仲間と関わる場も少ないのが現状である。

「こいこいクラブ」は、自分たちが主人公になれる活動として、夢や願いが実現できる場として約20年余の活動を行ってきたが、運営体制やボランティア確保の難しさにより活動維持が困難になり中断することになった。再開の目途は立たないまま今に至っている。「こいこいクラブ」の実践は、行事のみならず学習活動に発展をしていったことや、本人の意思決定を尊重した当事者運営のあり方は、後の生涯学習を実践していく上での原点になった。

### (2) NPO 法人「エス・アイ・エヌ」による生涯学習の事業化に向けた二つの実践

余暇活動や学習活動の安定した継続的な運営をめざし、公的財源による運営基盤の構築と体制

作り及び中身作りを進めるためにNPO法人による運営を模索した。これまでの経験から、余暇活動と学習活動と相談援助の取り組みを一体化して展開する必要を感じていた。しかし行事的な活動の蓄積はあったが、学習活動については経験が浅いため、大学のオープンカレッジや専攻科の取り組みなどの先行的な研究や実践を参考にして、NPO法人による大学との連携によるオープンカレッジや生涯学習講座の開催に取り組んだ。

#### ① 「レッツ・オープンカレッジIN広島国際大学」の実践

2004年10月に広島国際大学医療福祉学科との共催で知的障害者を対象とした「レッツ・オープンカレッジIN広島国際大学」を開催した。

講座内容は、暮らしに役立つ法律や制度などの「学びの講座」と、生活を楽しむ「レッツ・エンジョイ・カルチャー講座」の2本立てで行った。

「学びの講座」では大学教員や医療・福祉などの専門家による『私たちを守る法律と制度』『働く保障と権利』『障害基礎年金』『成年後見制度』『健康管理』等の講座。

「レッツ・エンジョイ・カルチャー」では、大学教員や専門のインストラクター、学生ボランティアによる『大学祭へ行こう』『ダンス』『クリスマスパーティー』『ミュージック』『スポーツ』の活動の取組を進めた。

医療・福祉系の大学という利点や環境を生かし、学生と一緒に専門的な学習を分かりやすく学んだり、キャンパスライフを楽しむことができたりして、日常と違う環境での刺激を楽しむことができた。しかし、この取組を継続していくためには、大学のバックアップ体制や大学教員の積極的な関与が条件になり、単発的な活動に終わった。

#### ② 『自立を学び合う生涯学習講座』の実践

2011年10月～2012年3月にかけてWAM助成金（社会福祉振興助成事業）を活用して生涯学習講座に取り組んだ。講座の内容は次の通りである。  
第1回『コンピューターの使い方』  
第2回『障害者の福祉制度とサービス利用』  
第3回『余暇に楽しい活動の計画を立てる』  
第4回『社会生活とマナーとエチケット』  
第5回『健康で豊かな食生活』

第6回『経済生活について～上手な家計と貯蓄～』

第7回『健康生活と医療』

第8回『自立について』

講師には、講座のテーマに即した専門家（大学教員、看護師、ビジネスマナー講師、社会福祉士など）を招いて、知的障害のある人にも分かりやすい興味をもてるような教材の作成をしてもらい、グループワークや演習などの集団を生かした講義が行われた。

#### （3）生涯学習講座の実践による成果と課題 《成果》

- ① 講座で活用したテキストをまとめ、本人、講師、支援者が活用できる自分らしく豊かに生きるための「自立を学びあう生涯学習」のテキストを作成ができた。
- ② 学習プログラムを実施するための専門家や支援者の協力関係や機関との連携を構築するネットワークができた。
- ③ 就労や生活の中で実感する課題だからこそ学びが有効な手立てであると確信した。

#### 《課題》

- ① 参加者が継続的に利用できる事業化と地域で活動を普遍化することが重要である。（安定した運営財源や人的体制の確保が必要）
- ② 参加者が学びやすい活動時間や利用しやすい場所（拠点）での常設化が必要である。
- ③ 参加者のニーズに応じた多様なプログラムや学びの講座以外にも余暇活動としての楽しい集団的な活動も必要である。
- ④ 講座での学習を生かした生活の困り事やニーズに応じて、相談や援助による解決を図ったり、福祉サービスにつなげたりする必要がある。

#### 3. 生涯学習への事業化と多様な活動

##### （1）「集いの場あゆみ」の事業概要

NPO法人エス・アイ・エヌでは、これまでの生涯学習や青年教室の実践経験を生かして、継続可能な事業形態により実践の普及をめざすために、2015年7月、広島市地域活動支援センターⅡ型事業を活用した「集いの場あゆみ」を設立し、2016年9月から就労している知的障害者の生涯学習支援の場として本格的な運営を行った。

### 《広島市地域活動支援センターⅡ型事業とは》

この制度は広島市の障害者福祉サービスで、事業目的を「機能訓練、社会適応訓練等、自立と生きがいを高めるための事業」としており、生涯学習の内容と共通する部分が多くある。利用人数や利用日数は上限設定のみで、開催の曜日には制約がないため生涯学習支援には適していると考えた。

#### (2) 「集いの場あゆみ」利用者の実態

利用登録者数は30人で、月の平均延べ利用者数は105人前後である。男性24人、女性6人で、一般就労は24人、就労継続支援などの障害者福祉サービス事業所は6人である。一般就労の手取り収入は、月10万円以内が15人、10万円以上が9人である。利用者の年齢構成は、30歳未満は16人、30歳代は8人、40歳代は6人である。

また生活については、グループホーム利用者4人、一人暮らしが2人である。その他の利用者は家族と暮らしている。利用者の家族・家庭や経済的な状況は、片親家庭、生活保護や年金世帯、保護者に障害があるなど、様々な困難さを複数抱えている人も多い。

障害の状況は全員が療育手帳の保持者であるが、精神保健福祉手帳の保持者や発達障害の診断を受けた人もいる。

また、「集いの場あゆみ」を利用するまで、障害者福祉サービスを利用した人は20%程度で、ほとんどの人は障害者福祉サービス利用の経験がない。

#### (3) 活動内容

集いの場あゆみは、月～金曜日（以下ウィークデイ利用とする）と日曜日の利用ではプログラムが異なる。

日曜日に休日の人が多いので（15人前後）講座形式の学習や文化活動、そして行事的な活動を主な内容として行っている。

ウィークデイの利用者は、平日が休日になるスーパーなどに勤める職種の人である。1日平均で3～5人である。その日の利用者は様々であるが、同じ趣味、志向を持つ者同士のサークル活動を行

ったり、グループ活動という楽しく過ごす時間があったりである。他にも利用者の希望やイベント情報などからメニューを考える。

#### 4. 生涯学習支援と余暇活動の実践

##### (1) ウィークデイのプログラム例

(10時～15時)

曜日	午前	午後
月	(S) スポーツ	(S) カラオケ /ティータイム
火	(S) わが家食堂	(S) 天耕録 /ティータイム
水	(S) アート制作	(G) 室内ゲーム /ティータイム
木	買い物	(G) スイーツ作り
金	外出 (美術館)	ワンコインランチ

##### ○ グループ活動 (G)

あゆみの室内で行う活動でゲーム、テーブル卓球、インターネット、手芸、カラオケ、スイーツ作りなど。(遊具・用具はあゆみに常時ある)

##### ○ サークル活動 (S)

「作家クラブ」「アートクラブ」「わが家食堂」「カラオケカフェ」「スポーツクラブ」である。

詳しくはそれぞれの部長が活動の紹介を行う。

##### ○ 社会見学や展覧会などの鑑賞や見学 (外出)

美術展鑑賞、水族館、映画鑑賞、展示会、ランチ、社会的施設(郷土資料館、健康科学館、プラネタリウム等)、イベントへの参加(アイサポート活動等)

##### 「ウィークデイ利用者のサークル活動紹介」

##### 《カラオケカフェの紹介》

ぼくは、カラオケカフェのカラオケマスターです。ぼくの役割です。

- ① カラオケのセッティングをします。
- ② みんなから自分の歌いたい曲を紙に書いてもらいぼくが集めます。
- ③ リクエスト曲をカラオケの機械に入力して、ぼくが進行役をします。
- ④ みんなにカフェメニューから、おやつや

ドリンクサービスの注文を取り、ぼくが作ります。

⑤ カラオケを歌い終わって最高点が出たらみんなでコメントを楽しみにします。

⑥ みんなが2曲か3曲か歌ったらぼくが最後に歌います。

⑦ カラオケセットの後片づけまでをぼくがします。

⑧ カラオケにない最近の曲を希望する人もいますので、ぼくがアンケートをとって新曲を買う準備をします。

#### 《アート部の紹介》

ぼくはアート部の部長、Kです。毎月のあゆみの壁画アートを作ります。10月は「おぼけかぼちゃ」11月は「落ち葉ひろい」12月は「クリスマス」などを作りました。

ぼくが一番よくできたと思った作品は8月の「水族館」です。カニと魚を描いて、クレヨンで色を塗りました。水そうの水の色は水族館のときのことを思いだして、絵の具をまぜて作りました。まぜると、とってもきれいな色ができて嬉しかったです。岩も新聞紙を丸めて本物の岩のように作りました。みんなにも協力してもらってアートの作品を作るときはとても楽しいです。美術館に行って、いろいろな作品や色の使い方を見るのも楽しいです。これからたくさん作品を作っていきます。よかったら僕たちの作品を見に来てください。

#### 《作家クラブの紹介》

ぼくは松風天耕といいます。この名前はペンネームです。ペンネームができたか説明をします。

ぼくは、今まで中国新聞の「天風録」というコラムを毎日欠かさず書写してました。

最初は、あゆみの平日の午後に、「天風録」からぼくが気になった出来事や季節の話題、スポーツ記事をぼくの解説付きでみんなに紹介をしました。そのうちに自分のコラムとして自ら考えた「天耕録」を書くことになりました。「天風録」とぼくの名前の字を組み合わせてペンネームやコラム名が決まりました。

「天耕録」は美術館に行ったり、生涯学習に参加したりして感じたことをまとめています。「天

耕録」を書くために生活の中でネタを探すことが増えました。また、インターネットをつかってウィキペディアで調べて記事の内容を深めています。

作家クラブは、ぼくともう一人旅行記を書くMさんもいます。家族との旅行記などを書いていきます。そのうち文集を作りたいです。

#### 《わが家の食堂》

あゆみでは「わが家食堂」の時に、作りたい人がシェフになって、自分の得意料理や職員さんとレシピを考えた料理をみんなに食べてもらう取組があります。あゆみの仲間にも手伝ってもらいます。私がシェフになったときに好評だった山口県の名物の瓦そばセットで作った料理を紹介します。瓦の代わりにホットプレートを使い、めんを炒め味付けをして牛肉、きんし卵をのせ、めんがパリパリになるまで待ちます。食べる前に紅しょうが、ねぎ、レモンをしぼります。

最後に韓国のりをパラパラッとかけてふぞくの汁で食べます。あゆみでは、みんながおいしいと言って食べてくれるので作りがいがあります。

でも、自分のやり方で作るのは簡単ですが、友達と一緒に協力して作るのは難しいです。私はイライラしてしまって手伝ってくれる友達にきつく言って傷つけることもありました。みんなで楽しく食べるお昼ごはんは、作る時も楽しく作るのだと思いました。

#### 《スポーツクラブ》

ぼくはスポーツ好きの仲間と一緒に、あゆみの近くの体育館でミニテニスやバドミントンをします。あゆみの仲間や他の団体の仲間と一緒に福祉センターの大会に出たりします。スポーツは一人でやってもおもしろくありません。今まであまりスポーツをやったことのない人も参加するようになりスポーツを楽しむ人が増えているのでうれしいです。

#### (2) 日曜日の生涯学習講座と余暇活動の取組 (2017年度)

##### ① 専門の講師による学びと文化活動の講座

###### 【学びの講座】

「自分を守る健康生活」「経済生活」「コミュトレ (コミュニケーション力や調整力を付ける)」

「健康的な食生活」等

【文化活動】

「カープの紙芝居」「音楽・ダンス」「楽しいヨガ」等

③ 利用者のアンケートから計画を立てる余暇活動

【娯楽・レクリエーション】

「マリホ水族館」「森林公園ハイキング」「夏祭り」「ハロウィン祭」「焼き肉大会」「ボウリング」

《生涯学習講座での学びの講座から実践の紹介》

○ 生涯学習講座「健康的な生活を送るために」

講師は看護師さんで、講座のテーマは「心の健康と体の健康」である。

テキストの内容（以下講師の言葉も交えて解説）  
「ストレスについて」おすすめのストレス発散方法 ①体を動かす。②今の気持ちを書いてみる。③深呼吸を繰り返してリラックスをする。④なりたい自分に目を向ける。⑤音楽を聴いたり歌ったりする。⑥笑ってみる。⑦心と体はつながっている。ストレスがたまっているなど感じたら、できるだけ早く1人で考えないで友だちや家族に話してみる。

「インフルエンザについて」

①手洗いうがいをする。②部屋の空気を入れかえ加湿する。③栄養・睡眠に気をつける。④せきエチケット（マスクの着用）に心がける。

「健康手帳の利用について」

自分の身体状況や健康の状況を記録した手帳を活用する。講座の中で身長、体重、体温、血圧などを計測してもらい作成する。

「講師の話」

「ストレスの話」では、出席者の一人一人がどんなときにストレスを感じるのか」やどのようにストレスを解消しているのか」を出し合いストレスの解消方法をみんなで考えた。

ストレスの原因で多かったのは①仕事が忙しい。②上司や同僚との人間関係がよくない。③周囲の人との人間関係がよくない。などでした。解消方法は個々で様々で「音楽を聴く」「カラオケで歌う」「歩いたりする運動」「食べる」「寝る」「あ

ゆみで話す」「自分の好きな電車を見に行く」などがあつた。中には「ストレスがたまって爆発するとこんな顔になる」と自分が想像する表情の絵を3段階に分けて描いて、自分のストレスがたまっていく過程を説明する人もいた。

また、病院での診療の受け方や健康手帳の使い方の説明では、看護師さんがDr役や職員が患者役になったロールプレイを見て、言動の仕方を本人も実演をした。

『講座のアンケートから』

・インフルエンザにかからないために手洗いやうがいをしっかりすることが分かった。

・ストレスになったときに、自分以外の人はいろんなことをしてリフレッシュしているんだと思った。

・血圧をはかったり、健康手帳を見せたりすることで、お医者さんに分かりやすくすることが分かった。今度から病院に健康手帳をもっていこうと思う。

・ストレスをためないようにするには自分の趣味をもつことが大切かなと思った。

5. 利用者の言葉や姿から学んだこと

サークル活動を始めてから利用者の変化に気付くことが多い。アート部のKさんは、話し言葉や書き言葉も苦手だが、アート制作へ興味を持ち始めてからは、最初は美術館に行っても一人でスタスタと行っていたが、最近は立ち止まっては気になった作品をじっと見ていることもある。

またアート制作に役立ちそうなお菓子の包み紙を大切にしておくなど、物や色のデザインなどに関心が高まっている。友達と一緒に活動する楽しさを覚え、会話も増えてきた。

利用者の中には、1日3食とも弁当を食べたり一人でご飯を食べたりする人も少なくない。

そのような中で、わが家の温かいご飯を美味しく、楽しく会話をしながら食べるのが御馳走になる。

「集いの場あゆみ」の利用者がよく口にする言葉に、以来（いらい）がある。体育館でのスポーツは高等部以来、映画鑑賞は小学校の体育館で見て以来、自分で調理をしたのは学校の調理実習以

来、美術館は学校の校外学習以来、友達ができたのは学校以来、家と職場以外の所に来たのは就職して以来、数え切れないほどの以来を聞いた。学校を卒業すると、就労場所と家庭以外の場所とは遮断され、経験の機会や友達との出会いや交流も閉ざされる。

日曜日の学びの講座では、グループワークでお互いが意見をぶつけ合ったり、自分の主張を譲らなかつたりする場面も多く見られる。厳しい労働環境に耐えて、決して楽ではない生活環境の中でもたくましく生きている自信なのか、生涯学習の場では、自分の考えや意見を自由に堂々と発表できる。

利用者それぞれの生活実態や経験、年齢の違いによる願いや思いは様々である。私は、生涯学習による学びの意味や深さを感じながら学びあうことの大切が分かる。

Kさんがあゆみを利用する思いを次のように語ってくれた。

《私（Kさん）にとってのあゆみ》

あゆみに行く日が私の「わろてんか」です。私はスーパーに勤めています。スーパーでは人間関係に悩んでいました。家とスーパーとの往復だった私に、元の担任の先生に声を掛けてもらってあゆみに行くようになりました。嬉しかったです。休日の日にあゆみに行っては話を聞いてもらって楽しく過ごしています。そして始めて友だちもできて良かったです。私のまわりには家族と職場のおばちゃんしかいませんでしたが、あゆみに行くといろんな話ができます。私の大好きなワイドショーのネタ話やNHKの連ドラ情報を話すと、みんなが大笑いをしてくれます。一番すっきりするのは職場のグチを言うときです。そこでまたみんなで笑います。私の話はみんなを笑顔にする「わろてんか」だと言ってくれます。

## 6. 「集いの場あゆみ」の実践の到達点（現段階）

### （1）安定した継続的な運営

生涯学習支援を障害者福祉サービス事業で行うことは、安定した運営と継続的な支援が可能になり、利用者を支える拠点として確立することができた。

### （2）学びへの要求と主体性

本人の生活に裏打ちされた問題意識が学びを必要とする要求を生み出している。また集団の中でお互いの経験を学びあう姿が印象的である。学ぼうとする意欲や主体性はこのようなことが背景になっている。

### （3）人生を豊かに生きる支援

サークル活動は、人生の楽しみ方や生きがい作りを大切にしたい取組である。その人の持ち味や自分らしさを引き出すことにつながっている。生涯学習支援が人生を豊かに生きることにつながり、さらに共感できる友達との出会いにもなっている。

### （4）活動の広がりネットワーク

生涯学習講座を支えてくれるのは、専門的な講師陣のネットワークである。その道のプロの講師が障害に配慮した教材や支援を行ってくれる。

また、他の余暇活動グループと一緒に活動をして、他団体との連携により人との関係を広げている。そして「集いの場あゆみ」の地域にある男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）の交流会や広島市心身障害者福祉センターのスポーツ大会にも参加し、地域の社会資源の活用も行っている。

### （5）相談や援助から共に解決して学ぶ

利用者には生活から就労までの幅広い困り事や悩み相談がある。内容は生活情報や諸手続の対応方法、障害年金の手続き、障害者福祉サービス利用の相談から行政手続きに関する実務的な援助に至る場合もある。実際に生活での困り事や不便さを本人と支援者が一緒に解決する経験も学びにつながっている。

### （6）生活や就労の場で活用できる学習プログラム

本人が職場や生活場面で活用できる知識やスキルを学べる内容が大切となる。実際に困っている内容に即して、支援を必要としている場所で活用できるような知識やスキルを身に付けることも大切になっている。そのためには、生涯学習は、その都度、就労や生活の中で起きる様々な問題やニーズの把握をして、解決に導く学びのプログラムの作成が必要である。